



高齢者への認知症スクリーニング実施件数

認知症患者への医療提供において、重要となるのが「早期発見・早期治療」です。

本指標は65歳以上の退院患者の認知症スクリーニング検査（長谷川式検査）の実施状況を示しています。20点以下で、認知症の可能性が高まるとされています。また認知症であることが確定している場合は、20点以上で軽度、11～19点の場合は中等度、10点以下で高度と判定します。また、どのような認知機能の障害かを判定するために、どの項目で失点したかの記載も必要となります。

長谷川式検査の点数と認知症の程度の目安

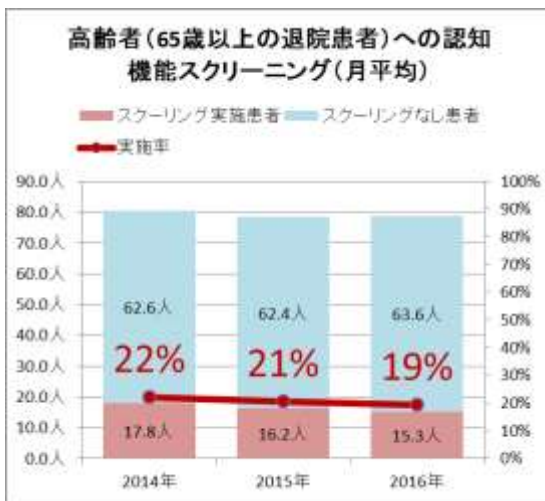
20点以上	軽度認知症
11～19点	中程度認知症
10点以下	高度認知症

退院患者のスクリーニング検査実施割合は、昨年と比較して実施割合がやや低下しました。

実施件数については、入院患者の件数は増加し、外来の実施件数は減少しました。

高齢者への認知症スクリーニング実施割合

分子	内、認知症スクリーニング検査を実施した患者
分母	65歳以上の退院患者(4日以上在院)
表示	月平均



病棟別で見ると、回復期リハビリテーション病棟での検査実施率が49%から77%に増加しました。当院の回復期リハビリテーション病棟は他院と比較して高齢者の占める割合が多く、ケア・リハビリを

行う上で、認知症への対応も重要なポイントとなります。

本年、回復期リハビリテーション病棟では認知症対応に力を入れ、認知症ケア・ユマニチュードの学習会などを通して認知症ケアの質向上に取り組んできました。本年の実施率向上もその一環です。

取組の結果、認知症により不穏な行動が多かった患者が、安定して過ごせるようになり、また、職員もより患者に向き合って対応できるようになり、接遇の向上にもつながりました。



		2014年	2015年	2016年
急性期一般病棟	患者数	598	638	451
	長谷川式検査実施	135	138	141
	実施率	23%	22%	31%
回復期リハビリテーション病棟	患者数	343	241	158
	長谷川式検査実施	121	118	122
	実施率	35%	49%	77%